1月14日　「5000人の給食」　聖書研究

テキスト　ヨハネによる福音書6章1〜15節

⑴ おどろくべき養い

①5000人を養う主イエスの奇跡は、四つの福音書すべてに記されています。つまり「福音」を語る際に、どうしても省くことのできない出来事として、主イエスの弟子たちに記憶されているのです。

②出来事の要点は、主イエスが五つのパンと二匹の魚で、5000人の人々（しかも数えてみたのは男だけの数）を、養ってくださった。それだけの人々が空腹を満たされてなお、弟子たちが残りのパンを集めると、十二の籠にいっぱいになったのです。これらの要点では、四つの福音書の記述はまったく共通です。

⑵ ヨハネ福音書の叙述の特徴

①ヨハネ福音書は、豊かな給食を受けた群集の中に、主イエスへの誤解が広まって、もはや収拾がつかなくなる様子を描きます。主イエスを「預言者」とみなす者、この方を「王」として戴こうとする者。イエスを預言者、王と見ることは、かならずしも全面的に間違いとは言えません。しかし、その理解はきわめて浅いとことに留まっています。

②人々の誤解を解くために、この福音書では主イエスの長大な説教が続きますが、語れば語るほど、その誤解は大きくなり、ついには、大勢のものが主イエスのもとを離れる結果になります。

ヨハネ福音書では、自分のささやかな「弁当」を差し出した「少年」に光を当てる読み方も魅力的でしょう。

⑶ 主イエスと共に考える

①「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」。主イエスは、弟子フィリポに尋ねておられます。御自分では何をすべきかを知っておられ、あえてフィリポを試みておられるでのす。主イエスから問われることは、主イエスと共に考えることです。

②もう一人の弟子アンデレも、大麦のパン五つと魚二匹をもった少年を見つけて主イエスに報告します。「けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう」。これがフィリポの出した結論です。二人の弟子は、この行き詰まりの中で、主イエスと共に考えることを学びます。そのことを通して、主イエスはご自分の思考、ご自分の決意の中に、彼らを招こうとされます。

③大きな難局の中で、自分の無力さがひしひしと心を圧迫する。キリスト者も教会も、繰りかえし同じことを経験します。主イエスなら、この難局をどう乗り越えられるか。信仰に生きるとは、主イエスと共に考え祈る習慣を身につけることです。

⑷ まことの過越し、神の小羊

①ヨハネ福音書の5000人給食は、単なる空腹の満たしでなく、キリストこそ、命にいたるまことの糧、「天から降って来たパン」であるという、大きな使信へと展開されます（33、51節他）。その使信を導入するため、ヨハネ福音書は「ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた」と注意を促しています（4節）。

②パンを取り、感謝して人々に分け与える主イエスの姿は、最後の晩餐の食卓で、弟子たちの記憶に鮮明に再現されます。そして、教会は5000人給食を、自分たちの「聖餐」の食卓の中でも、繰りかえし「想起」します。主イエスが与えるまことのパン。それは永遠の命にいたる真実の糧です。ヨハネ福音書の「給食」は、キリストを食べて生きる信仰の真髄に、私たちを招きます。　（小野静雄）

1月14日　「5000人の給食」　説教展開例

テキスト　ヨハネによる福音書6章1〜15節
参照カテキズム　子どもカテキズム 問69、62

〔単元のねらい〕

主イエス・キリストは、神の国の到来の宣言を、その力あるしるしによって確かなものとされた。教会は、この神の国の先触れであり、しるしである。教会の頭は主イエスであり、その全存在は、キリストの体である。今も、主イエス・キリストは教会を通して御国を拡大し続けておられる。ヨハネによる5000人の給食の奇跡は、一人の少年が取り上げられる。子どもが、主イエスの御心の実現のために深く関わったという出来事である。我々のカリキュラムにおいてヨハネによる福音書を選択したのは、この少年に注目したいからである。子らと主イエスとが織り成すこの物語のなかで、子らの信仰と神の御子イエスさまの力ある働きが今も、織り成されて進むことを教え、励ましたい。私どもこそ、日曜学校の働きが成人の奉仕によってのみ担われるのではないことを、心すべきであろう。なお、既刊第11号にも筆者による当該テキストからの説教が掲載されています。

「僕のお弁当は、誰のもの？」

今、イエスさまは、山にいます。イエスさまは、いつものように神さまのこと、神さまの御国のことをお話しておられます。その日もまた、大勢の人々が、イエスさまのもとにやってきました。大人の男の人だけでも、5000人がいます。女の人や、子ども達を数えたら、一万人、いへもしかすると2万人くらいの人たちがイエスさまのお話を聞こうとして集まってきたのです。野球場とか、サッカースタジアムなら二万人入るところがありますね。でも、ユダヤにはそのような施設はありません。イエスさまは山にいるのです。皆は、一生懸命、イエスさまのお話を聞こうとして集まっているのです。この人たちは、どんな人たちなのでしょうか。イエスさまは、この人たちをご覧になって、「ああ、かわいそうな人々だ」とお腹をぎゅっとつかまえられたように、憐れみの心を強くもたれました。それは、この人たちに神さまの正しい教えを告げてくれる人がいなかったからです。神さまの命のことば、命の種を蒔いてくれる人がいなかったからです。この大勢の人たちは、まるで羊飼いから離れて、さまよっている羊の群れのように見えていたのです。

さて、夕方になりました。イエスさまの説教が終わりました。夕方になれば、どうなるかというと、そろそろお腹がすいてきます。イエスさまは、そのとき、隣にいた弟子のフィリポにこう言いました。「この人たちは、お腹をすかしているね。どこでパンを買ったら、皆に食べさせることができるでしょうか。」フィリポは、びっくりして言いました。「イエスさま、ご覧下さい。これだけの人たちですよ。ちょっとだけ食べてもらうにしても、たぶん、200万円くらいはかかります。」

フィリポさんが言うのも、よく分かります。だって、二万人もいたら、一個100円のパンをひとつだけしかあげられませんよね。先生だったら、夕食を、100円のハンバーガー一個だけで済まさなければならないのだった、すごく困ります。

イエスさまのこのお話をそばで聞いていた人に、一人の少年がいました。なんと、この少年は、自分のためにお弁当を持っているのです。お麦のパン五つと魚二匹です。焼き魚か、煮魚か分かりませんが、このお弁当をつくったのは、お母さんかもしれません。先生の勝手な想像ですが、このパン五つと二匹の魚のお弁当は、この少年一人の夕食ではなかったのではないでしょうか。先

生は、お父さんやお母さん、兄弟の分、つまり、その少年の家族みんなが食べる夕食だったのではないかなぁと思います。それにしては、本当に貧しいものです。でも、当時の人たちは、そのようにわずかなものを神さまに感謝して、食べていたのです。さて、その少年は、イエスさまのお話を聞いていました。そして、イエスさまが、お弁当を持っていない大勢の人たちのことをかわいそうに思っておられることを知ったのです。お弟子さんたちと相談していることを知ったのです。そこで、この少年は、いても立ってもいられなくなったのだと思います。そばにいた弟子のアンデレに、言いました。「あのぉ、このお弁当をイエスさまに差し上げます。イエスさまに、お伝え下さい。」アンデレは、考えました。「うーん、ありがとう。でもね、君のお弁当一つくらいでは、何にもならないよ。まぁ、仕方がない。イエスさまにお話だけしてみるよ」「イエスさま、そういうわけです。何の役にもたちませんね。」

すると、イエスさまは、喜びにあふれて仰せになられました。「人々を座らせなさい」皆が、シーンとなって座りました。するとイエスさまは、大麦のパンを手にとって、感謝の祈りを捧げました。大人の礼拝式に出ているお友達は、聖餐のとき、先生がパンを手にもって頭の上に上げて、イエスさまの御言葉を語っているのを見たことがあるでしょう。少し似ている仕草ですね。イエスさまは、そのパンを配り始められました。するとどうでしょう。五つのパンがイエスさまの御手の中で、どんどん、増えてゆきます。配っても配ってもなくなりません。皆、どんどん配って行きます。食べながら配ります。魚も同じようにして配られます。どんどん、配ります。どんどん増えてゆきます。皆は食べながら、配ります。どんどん、配って、どんどん食べて、皆、とうとう、みんなのお腹は、いっぱいになってしまいました。

この少年のお弁当は100倍になりましたね。いへ、もっとすごいことになったのですよね。これは、イエスさまの奇跡です。神さまの御子の力です。でも、そのためには、確かに、一人の少年のすばらしい信仰の心と従う心がありました。

今、実は、僕たち私たちの住んでいる地球では、一日に、一つのハンバーガーを分け合って食べている子ども達がたくさんいます。イエスさまを信じている僕たち私たちは、どうすればよいでしょうか。奇跡は起こるでしょうか。

先週は、種まきのたとえ話を聴いて礼拝を捧げました。イエスさまは今、僕たち私たちに命の種、御言葉の種を蒔いてくださいます。それは、僕たち私たちが、必ず、100倍も実を結ぶことを信じておられるからです。だったら、僕たち私たちは、ご飯を食べるときには必ず、自分のためだけではなく「日用の糧を今日も与えたまえ」、「食べられない人たちにもご飯を届けてください」とお祈りしないではおれませんね。十戒の最後の言葉に「むさぼってはならない」とあります。もし、あなたが、イエスさまのために、持っているものを差し出すなら、働き始めるなら、今も、イエスさまが奇跡を起こされます。　　（相馬伸郎）

〔今週の暗唱聖句〕　ローマの信徒への手紙6章13節

また、あなたがたの五体を不義のための道具として罪に任せてはなりません。
かえって、自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、
また、五体を義のための道具として神に献げなさい。

1月14日　「5000人の給食」　幼稚科

〈分級では〉

イエス様のお働きには、どんな小さな者の奉仕でも用いられます。むしろ小さい者を用いられることがしばしばあります。

今日の箇所のほんの一部分登場する少年も見逃せません。イエス様はその少年の持っていたお弁当を通して驚くべき大きなしるしを与えられました。

私たちは謙遜にさせられ、信じて行うならどんな小さな働きでも、イエス様によって大きな働きへと用いられると信じます。子供たちの素直な信仰生活を認め、共に成長していきましょう。

〈分級のねらい〉

ここのお話では、着目する箇所によっていろいろなメッセージが生まれるかもしれませんが、箇所全体からの視野に立ちつつ少年に注目したいものです。

〈展開例〉

①先週使った種まきの道具があれば、その小さい種をイメージしたものから、百倍の実を結ぶところを見せるため、大きめの紙（新聞紙）を丸めて筒状にし、内側に丸まった紙を引っ張り出していって伸ばす（実を結ぶ過程を表現するため）。

②①の様子を見せながら、今日のお話の少年の差し出した小さなお弁当をイエス様が用いられ、大きなしるしをあらわされたその様子を話す。この小さなものをイエス様は感謝され、大きなものへと用いられたその素晴らしさを子供たちと分かち合いたい。

③また少年の気持ちはどんなだったかを想像し、子供たちと話し合うのもいいかもしれない。

※注意としては、①の先週使った「種まきのたとえ」のものを使う場合は、先週の話と混同しないように区別が必要。

〈おいのり〉

神様、みんなのもっているものは小さいかもしれませんが、神様がそのお働きのためにお使いください。

「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいのだろうか」

1月14日　「5000人の給食」　小学科下級

〈ねらい〉

この素晴らしい奇跡に、小さな子どもの行いが用いられていることに思いを寄せ、私たちもイエス様のために、喜んで献げることができるように勧める。

〈展開例〉

1. 5000人以上の人たちが、イエス様からおなかいっぱいのお食事をいただいたお話でしたね。そのお食事は最初、誰の、どんな食べ物でしたか？
   →少年が自分のお弁当(五つのパンと二匹の魚)を差し出したことを確認する。
2. 私たちはいつも神様からたくさんの食べ物をいただいていて、おなかをすかせて困ることはありませんね。でも、世界中には食べるものがなくて死んでしまう人もたくさんいます。その人たちのために、私たちができることはなんでしょうか？
   →その人たちのためにお祈りする、献金する、など。また、食べ物を残さない、感謝していただくことも、大切であることを伝えたい。

〈つくってみよう〉

「しおりを作ろう」

〇用意するもの
色画用紙3色（台紙、魚、パン用)、リボンまたはきれいなひも、サインペン、はさみ、のり、穴あけパンチ

①しおりとして適当な大きさに切った台紙（これがお弁当箱！）を渡す。
②魚・パン用の色画用紙を配り、魚二匹・パン五つを好きなように切り抜く。(お弁当箱に全部入るようにね！)
③魚とパンを台紙にのりで貼り、裏には名前やみことばをサインペンで書く。
④パンチで穴を開け、リボンまたはひもを通す。

〈おいのり〉

神様、小さな子どもも用いてくださり、イエス様のお手伝いをさせていただけることをありがとうございます。私たちにできることを教えてください。そして、喜んで神様にお仕えすることができますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

1月14日　「5000人の給食」　小学科上級

〈ねらい〉

イエス様こそ私たちに与えられた命のパンである。

〈展開例〉

1. どれだけのパンが必要だったのでしょう

男が5000人ほどであった、と書いてあります。女の人や子どもを入れると、どれほど多くの人がいたことでしょう。

これらの人が、たとえば一人200円分のパンを食べたとしたら、男の人だけで100万円分のパンが必要です。一人１個でも5000個以上のパンが必要です。トラックで運ばないと持ってこられないでしょう。

2. イエス様の問いの意味

イエス様は弟子たちに次のようにいわれました。「この人たちに食べさせるには、どこでパンを買えばよいだろうか」

これほど大勢の人たちに食べさせるパンを弟子たちが用意できないことを、イエス様はよくわかっておられました。そのうえでこの問いをされたのです。

それは、弟子たちに考えさせ、弟子たちがどのように答えるかを試すことによって、イエス様がこれからしようとしておられることの中に、弟子たちを招こうとされたのです。

「ここには五つのパンと二匹の魚しかない。しかし、そんなものは何にも役に立たないだろう」というのが弟子たちの答えでした。

3. わたしは命のパンである

イエス様が五つのパンと二匹の魚を取って人々に分け与えられると、パンと魚は、配っても配ってもなくなりませんでした。人々は欲しいだけパンと魚をお腹いっぱい食べました。

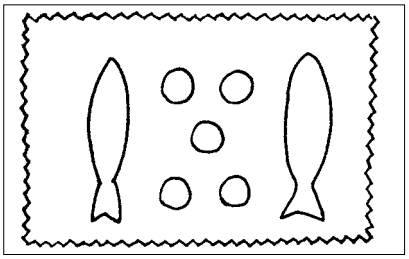
「わたしは命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じるものは決して渇くことがない」という御言葉の真理を、目に見える形で、食べて満腹する形であらわしてくださったのです。

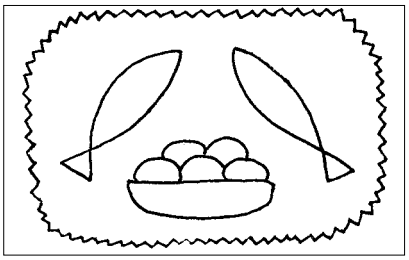
イエス様こそ、私たちに永遠の命を与えてくださる生きた命のパンそのものです。私たちに永遠の命を与え、豊かに養い、あふれるばかりに満たしてくださいます。

4. 五つのパンと二匹の魚の壁飾りを作ろう

〔用意するもの〕フェルト（いろんな色）、ピンキングばさみ、ボンド、ハサミ、厚紙

(作品の例)





・フェルトを四角に切って厚紙に貼る。
・それよりも一回り小さくフェルトをピンキングばさみで切って上から貼る。
・さらに魚とパンの形に切ったフェルトを貼る。

1月14日　「5000人の給食」　中学科

〈今日のカテキズム〉

※参照カテキズムとして、子どもカテキズム問69、62が挙げられています。問69は先週出てきましたので、そちらを参照してください。

問62　第十戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答　神さまは、私たちに必要なものを与えてくださいます。

しかし、人は、少しでも多くのものを自分のものにしようと欲しがります。むさぼりの心こそ、偶像礼拝です。それを考え、実行してはいけない、ということです。

むしろ、神さまは、私たちの心を　人の幸せを願うように造り変えてくださいました。

ですから、私たちは神さまから与えられたものに満足し、感謝し、人に与えることを喜びとするのです。

※自分に与えられたものに満足するばかりでなく、他人に分け与えることまでできるようになれ、ということは、旧約の昔から神さまに求められていますが（例えば、レビ23：22「畑から穀物を刈り取るときは、その畑の隅まで刈り尽くしてはならない。収穫後の落穂を拾い集めてはならない。貧しいものや寄留者のために残しておきなさい。わたしはあなたたちの神、主である」)、そういった教えが引照聖句として挙げられている戒めはむしろ、第八戒の「盗んではならない」の方です。つまり分け与えないことは「盗み」なのです。ウェストミンスター小教理問答問75の答にあるように「他人の生活状態を不当に妨げる事、あるいはその恐れのある事」に当たるからです。確認してみましょう。

ウェストミンスター小教理問答

問74　第八戒では、何が求められていますか。

答　第八戒が求めている事は、私たち自身と他人との富や生活状態を正当に確保し、向上させることです。

問75　第八戒では、何が禁じられていますか。

答　第八戒が禁じている事は、何事であれ私たち自身または隣人の富や生活状態を不当に妨げる事、あるいはその恐れのある事です。

※問74の引照聖句の中に申命記22：1～5があります。この箇所の中に三度「見ない振りをしてはならない」という言葉が記されています。また、テモテ一5：8は「自分の親族、特に家族の世話をしない者がいれば、その者は信仰を捨てたことになり、信者でない人にも劣っています」と言っていますが、「家族の世話をしない」とは「家族が幸せに生きる権利を盗んでいる」と考えるので、「信仰を捨てたことになり」という強い表現となって表れています。「神の御心を行う人こそ、わたしの兄弟、姉妹、または母なのだ」と言ってくださったイエスさま。5000人以上の人たちを、見捨てておけない、と憐れんでパンを与えてくださったイエスさまのお心は、第八戒の真髄と言えるのではないでしょうか。

〈今週の聖書日課〉

日曜日	ローマ6：13
月曜日	テモテ一5：8
火曜日	レビ25：35
水曜日	申命記22：1～4
木曜日	出エジプト23：4～5
金曜日	エフェソ4：28
土曜日	ローマ12：15

先生方へ②
今号で紹介している問答は、具体的な問題についての興味深いやり取りが多く、暗唱用というよりは、皆で一緒に考えるきっかけとなる材料を提供してくれるものと言えます。具体的すぎて、皆の意見が分かれたり、表現が引っかかったりするかもしれません。